

入選

勇気を出した親切

奈良県 俵口小学校 六年
河合 真和

私は学校で、中休みと昼休みに図書委員会の活動をしています。私は、月曜日担当ですが、その日は火曜日だったので、図書室に友達と本を借りにいきました。でも、人が多くて、返却と貸出しをするカウンターでは行列ができていました。

そのカウンターの中では、5年生の男の子が一人で仕事をしています。委員会は、6年生と5年生の二人で仕事をするのですが、今日は6年生がいない様子でした。私は、カウンターの中の男の子と行列を見ていましたが、いっしょに借りに来た友達が、

「手伝ってあげたら？」と言いました。

私もそう思っていたので、カウンターに近づこうとしましたが、男の子は知り合いではないので、話さずらくて、その場で立ち止まってしまいました。

すると、図書室に女の子が入って来て、その男の子に、

「手伝おうか？」と言いました。

「お願い！」と、男の子は仕事をしながら、さげびました。

よく見ると、その女の子は図書委員会の人で、私と同じ月曜日の子でした。その女の子は、てきぱきと男の子を手伝っていました。でも、二人になってもどンドン本を借りたい人がいるので、行列がなくなることはありませんでした。私は、もっと早く自分が手伝っていれば、女の子が手伝える必要がなかったのではないかな、と思いました。

私はとても後悔して、仕事をする男の子と女の子を見ていました。少したつと、5分前の音楽が流れてきました。行列から何人かの人があぬけて、4人ほどにへりました。すると突然、貸し借りのパソコンにエラーが出て、女の子が困っていました。

時計を見ると、もう5分前を過ぎていて、チャイムがなりそうです。私は、

(今自分にできることは、並んでいる人たちをチャイムがなる前に本を返して、教室に帰らせてあげることはないか) と思いました。

私は、カウンターの横に並んでいる二人の人の本をもらって、カウンターの机に置きました。本がなくなった人たちは、急いで帰っていきました。本を置くと、女の子がおどろいて、私の顔を見ました。

「これ……、みんなの返した本だから。」と、私はきんちょうしながら言いました。女の子は、

「あ、ありがとうございます。」と言って、また私の顔を見ました。

私は、そーっと教室に帰りました。自分の席にもどると、自分が手伝ったことに気づきました。いつも後悔して終わっているのに、初めて、「したら良かった」を「して良かった」に変えられて、とてもうれしく思いました。